プログラム

1. ジェンキンス，ジョン
四声部のパバーヌとファンタジア
リコーダーホールコンソート

2. ヘンデル，ゲオルク・フリードリッヒ
カンタータ「フィリの夜の想い」リコーダーと通奏低音のための，
Pensieri notturni di Filli : Nel dolce dell 'oblio

3. レーリッヒ
リコーダー四本のためのセレナード

4. クリスマス民謡集
1. エサイの根より　（ドイツの古い聖母マリアの讃歌）
2. 牧人羊を　（英国の古いカロル）
3. 喜びの歌声もて　（H・スソ　14世紀）
4. 久しく待ちにし　（ラテン語プレインソング 13世紀）
5. 東方の三博士　（J.H.オプキンス 米国 1857年）
6. 幼な児イエスよ，やさしきイエスよ（15世紀ドイツ古謡，バッハ BWV493）
7. フム.フム.フム　（スペイン カタロニヤ地方のカロル）

休　憩

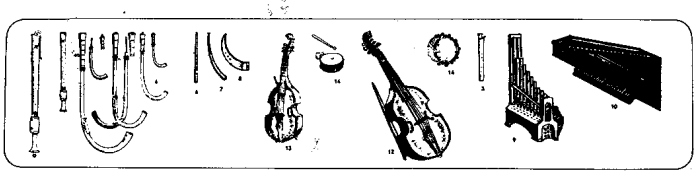
5. ルネサンスダンス
1) 前奏（入場）　あなたの瞳の中に（Belle qui）によるパバーヌ
（トアノ・アルボー曲）　— V.Gr.+ Cemb.
2) 挨拶　——　——— Org.
3) 舞踏 I　ソールスベリー伯爵のパバーヌ（The Eeal of Salisburys Pavan）（ウィリアム・バード曲）　Bfl.+Cemb.
4) 間奏　イギリスとフランスの踊り（Dance of England & France）（ウィリアム・バード曲）　——　Cemb.
5) 舞踏 II　ブルボン家の希望（L'Esperance de Bourbon）
サルタレロ（Saltarello）
バスダンス（Basse Dance）
—— Bfl.+ Schalmey + V.Gr. + Cemb. + Org.
6) 挨拶　——　—— Org.

6. テレマン，ゲオルク フィリップ
トリオソナタ　ハ短調
リコーダー，ヴァイオンと通奏低音のための，

7. バウマン，マックス　（リコーダーオーケストラ）
古典風組曲
1) 古典風マーチ
2) 子供の遊び
3) ワルツ ミュゼット
4) 鐘（カリオン）

使用楽器

リコーダー：Moeck,Dolmetsch,Küng,Heinlich,Fehr,Coolsma,
Stieber,ZEN-ON,YAMAHA,Morenhauer,Hopf,Aura
ヴイオラ・ダ・ガンバ：　佐藤一也,T. サカモト
クルムホルン：Moeck　　ショーム：Maeck
小型オルガン：Early　Music (UK)
小型チエンバロ：東海　　打楽器：Early　Music



曲目解説

1．リコーダーコンソート

J・ジエンキンス（1592～1678）はイギリスの作曲家で、各種弓奏楽器、リユートの演奏家としても活躍しております。今年は没後300年になりますので、イギリスでは記念音楽会が開かれた、と報告されています。ジエンキンスの音楽は、我国では特にビオール愛好者によく知られていて、作品は広く紹介され、ビオール音楽の宝庫となつている感じがします。日本ビオラ・ダ・ガンバ協会は12月3日に没後300年記念演奏会を開催しています。

今日演奏する曲は17世紀初期のイギリス・コンソート曲で、オクスフオード大学図書館に手書きで残されているものです。パバーヌ、フアンタジアとも各声部の動き、ハーモニーはすばらしい美しさと情熱にあふれています。我々のコンソートが少しでもそれを表現できれば、と思います。（山家）

2．ソプラノ，リコーダーと通奏低音のための　カンタータ「フイリの夜の想い」

ヘンデルはオペラを学びにローマに出て、イタリアのカンタータ（器楽から独立した声楽曲）に出会います。独唱のカンタータは17，18世紀を通して、宮廷や洗練された家庭の上品な娯楽として流行していました。特にイタリアでは「快い調べ」が理想とされていて、ヘンデルはその形式の習作として1706年から9年にかけて約100曲のカンタータを書いています。うち、72曲が通奏低音を伴つた独唱カンタータで、本日演奏する曲もそのひとつ、イタリアの音楽界の中に居たればこその作品といえましよう。

内容は、古代ギリシヤの楽園で、恋心にかられて寝つかれない娘心を唱つたもので、リコーダーは牧歌的な田園の情景をかもし出すために用いられています。歌い出しの歌詞は「夢が彼女にいとしい人の姿を描いてみせるので------。もし愛に動かされた思いを、しかと見分けられないようなら、その喜びにはいつわりがある」等々。　本日は原曲に忠実にソプラノソロ，リコーダー，チエンバロ，ヴイオラダガンバで演奏します。　（小林）

3．リコーダー4本のためのセレナード

16世紀に全盛期を迎えたリコーダーは、ロマン的傾向の時代には全く音楽界から忘却されてしまつたようです。しかし1920年代以降音楽学の発達などとともに現代に復元されます。素朴な音色と単純な構造でありながら完全楽器であることが、ブリトンやヒンデミツトなど、現代最高の作曲家にもとりあげられます。また、C・オルフやコダイは音楽教育のメトードの中にとり入れます。

R・レーリッヒについてはくわしいことはわかりませんが、ドイツのリナウ社から多くのリコーダー作品が出版されています。今日演奏するセレナードはリコーダー4重奏用に書かれ、ブリューニング4重奏団に捧げられています。各楽章のテンポ配置の巧みさは無論、全曲にみなぎる緊張感、緩かな楽章のロマン、急速な楽章のユーモアなど、この作曲家の作曲技法の卓越さとリコーダーに対する深い造詣には驚かされます。　（山家）

4．クリスマスの民謡集

ヨーロツパではイエスの誕生に身近な親しみを抱いて祝う、心の暖かさに満ち溢れた曲が、古くから歌いつがれてきました。教会で歌われるだけでなく、家族が久しぶりに再会し手近な楽器を携えて奏したであろう情景の再現を試みました。第1曲の歌詞は「花は咲きぬ寒き真冬の夜半に。やさしく香り高く、姿明るく闇を払う」と歌います。第2曲は羊の夜番をしていた羊飼達の上に天使の群が現われて、イエスの降誕が告げられた最初の喜び満てる情景を歌つたものです。第3曲は「人々よ、救い主は今日生れ給いかいばおけの中におられる」と天使の告示を歌います。第4曲は「我らの救主よ早く地上に来たつて私共を救つて下さい」と主を待望む気持が、単純な旋律の中に秘められた曲です。内面性の豊かさをガンバの合奏で表現したいと思います。第5曲は異邦人が押しに来たことをエキゾチツクなリズムや旋律で出そうと意図されています。第6曲は「幼な児イエスよ、天より下りてわれらと等しくなり給う。我らの罪をつぐない父なる神の恵みをもたらし給う。この世を喜びにて満たし我らを慰め給う。おおやさしきイエスよ」と歌います。第7曲はカタロニヤ地方の祝い歌です。スペインのひなびた田舎で、夢中になつて喜び踊る情景を、打楽器やソプラニーノリコーダーも加えて存分に出したいと思つています。　（小林）

5．ルネサンスダンス

歴史の本をひもどくと16世紀のヨーロツパは戦争と陰謀がひしめく血なまぐさい時代でしたが、舞踏の世紀でもありました。宮廷でも、都市や村の広場でも、人々はさまざまなステツプを踏んでこの世を楽しみました。

私達は今までにもルネツサンス舞曲を何度か演奏しましたが、これらの曲は当時の人々が実際に踊るときに演奏されたものです。曲だけをきくとごく単純なものでも、当時のステツプに合わせてみるとまた異なつた趣がでてきます。昨年に引きつづきいくつかの舞踏を曲に合わせて踊ります。まだ私達はルネツサンス・ダンスを習いはじめたばかりで、あまりむづかしいステツプは踏めませんが．．。また服装も当時のイメージに合うよう工夫してみました。

曲はいずれも16世紀のイギリスとフランスのもので、パバーヌとバスダンスは偶数拍子のゆつくりした踊り、サルタレロは奇数拍子の跳びはねるはやい踊りです。Belle qui はトアノ・アルボー（1519～1595）の舞踏教則本から、W・バード（1542～1623）の2曲はフイツウイリアム・バージナル曲集（別名エリザベス女王のバージナル曲集）から、また最後の曲はベルギー国立図書館のダンス本からとつたもので、作曲年代とその様式から推測すると、ブルボン家で最初のフランス王となつたアンリ4世（在位1589～1610）と関係がありそうです。今日はこれらの舞曲をさまざまな楽器で演奏しますが、このような演奏形式のことをブロークン・コンソートと呼びました。（野田）

6．リコーダー，ヴアイオリンと通奏低音のためのトリオソナタ　ハ短調

トリオ・ソナタとは、通奏低音の上に2つの声部がからみ合い対比しながら旋律を歌つていく演奏様式をいいます。通常、通奏低音はチエンバロの左手旋律をビオラ・ダ・ガンバで重ねることが多く、和声進行に従い定められた音型を奏していきます。上の2声部の楽器編成は自由で、フルート、オーボー、バイオリン、リコーダーなど、どの2つの組み合わせでも自由ですが、今日はリコーダーとバイオリンで奏し、通奏低音にはバスーンを用いてみました。

この曲はEsercizzi Musici（音楽練習帳）という曲集の中の一つで、哀愁をおびたLargoの第一楽章、短調でありながらVivaceで上の2声部の派手なやりとりで明るい感じをもつ第二楽章、変ホ長調に転じ明るくのびやかなAndanteで歌う第三楽章、Vivaceで応答旋律が次々と受け渡される軽快な第四楽章に分れ、いかにもテレマンらしい才気に満ちた曲といえましよう。　（瀬戸）

7．リコーダーオーケストラ

リコーダー音楽の一分野として、我が国でもリコーダー・オーケストラの演奏が盛んになつてきました。ドイツのノイケルン音楽学校のR・バルテル先生のクラスを見学した報告には「----その音はねり上げられた弦楽合奏の響きに近いというべきか、パイプオルガンの響きというべきか、言葉ではうまく表現できないが、とにかくその音楽性の高さに圧倒された----」と書かれています。

〃古典風組曲〃のバルテル先生の註（1959年の）には、M・バウマンは1917年オーバーフランケンのクロナツハ生れ、ベルリン音楽大学講師と紹介されています。楽譜の各パートは2～3部に分かれ、tutti（全員で）とsolo（少人数で）の部分があり、グレート・バスはad. lib（自由に）と記され、かなりの人数で奏する曲であることがわかります。曲は古典的な和声と民謡風なメロディーが感じられますが、単純・明瞭な形式ですので、各楽章の雰囲に合わせた楽器編成を工夫するのがよいようです。　（山家）